

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800652		
法人名	医療法人 さくら会		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	栃木県小山市卒島98		
自己評価作成日	平成22年8月16日	評価結果市町村受理日	平成22年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と入居者・家族との間に信頼関係がしっかりと築けている。そのため、家族とは、平日頃より、互いに電話や来訪時の情報交換の中で共通の認識とともに介護し合う者同士として接し合っている。何か重要な事が起きたとしても問題になることなく解決することができている。入居者の皆様の細やかな変化にいち早く気が付き、病院受診の対応や内服の調整までも事細かく対応できている。また、外出・外食等、外部に出る機会を増やし、施設内に閉じこもることなく過ごせるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小山市西北部の田園に囲まれた閑静な場所に位置している。法人理念の「やさしい医療・やさしい介護」を基に、ホームでも「一人ひとりを大切に、ゆったりとした生活を提供します」という独自の理念を掲げている。職員はホームの理念を把握しており、入居者の一人ひとりの個性を尊重したサービス提供に努めている。また、入居者及び家族と職員間における信頼関係の構築にも取り組んでいる。ホームには同法人のクリニックと介護老人保健施設が隣接しており、入居者の健康管理等において事業所間の連携が図られている。定期的に関われる、地域の生きがいサービスにも参加しており、入居者と地域住民との交流にも取り組んでいる。週1回イベント食の日を設けており、入居者と職員と一緒に食事を作り、職員も同じテーブルで一緒に食べる様にする等、工夫して支援に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「やさしい医療・やさしい介護」とグループホームの「一人ひとりを大切にゆったりとした生活を提供します」を理念に基づき、安心・安定した生活を送れるよう援助している。	法人理念と5つの基本方針「信頼・満足・専門・連携・誇り」を基に、ホーム独自の理念「一人ひとりを大切にゆったりとした生活を提供します」を作り上げており、職員は入居者一人ひとりの性格や生活態度を把握した支援に取組み、日々理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場として、地域住民が集まって活動している生きがいデイサービスに週1回参加し、交流を深めている。	自治会は未加入であり、地域住民の来所もまだだが、市が開催している生きがいデイサービスに週1回参加しており、流しそめん、遊びりテーション、保育園児との交流会等を通して、地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「施設に入居している」という事で、「何も分からない人・何もできない人」と認識されてしまっている。住民と関わる中で、できることもあるし、できる人もいることを伝えてはいるが、認識は浅い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はまだ実施できていない。包括支援センターや民生委員の方々とは、会議の進め方、内容については電話等でやり取りはしている。	運営推進会議は開催されていない。民生委員、自治会役員、老人会長には生きがいデイサービスの参加時等にホームの取組み状況等を説明し、ホームへの理解に努めている。今後は、包括支援センター職員や家族等も交えて運営推進会議を開催したいと考えている。	今後、包括支援センター、民生委員、老人会長、消防署員、自治会長、家族等に参加を呼びかけ運営推進会議を開催し、当ホームの状況報告や今後の支援や運営について意見交換ができる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事などがある時には、電話や訪問にて話させていただくこともあるが、度重なる行き来をするまでにはいかず、いつも施設側から一方的になっている。協力関係を築くことができるよう働きかけは行っていきたい。	市の担当職員とは連絡を密にとり、顔見知りになっているが、ホーム側からの質問や相談が多い状況にあり、協力関係を築くまでは至っていない。	市の担当職員に働きかけて市内のグループホーム事業所の集まりを立ち上げてもらうなどして、今後、市とより一層連携が図られるような取組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の理解と介護について学び、身体拘束の対象となる行為も理解した上でケアに努めているが、玄関の施錠は安全性からやむをえない状況にて行っている。	代表者及び全ての職員が「地域密着型サービス指定基準及び地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解したうえで、日々の支援に取り組んでいる。玄関の施錠は安全面を考慮し、オートロックになっている。	

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修に出る機会をなかなか持つ事ができず、資料も少ないが、職員同士で日々話し合い、また、法人についてもマニュアルを作成し、事故対策委員会等で話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会はあるが、参加できていない。また、今のところ、家族管理されている方がほとんどなので、成年後見人制度を利用したものがいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、入居日に行っている。また、改定等がある場合には、来訪時やお手紙にて伝えている。それらに関しては、十分な説明をし、納得の上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で、ご本人の状況を常に詳しく伝えている。また、対応の仕方も本人や家族が意見を言いやすい、雰囲気大切にしている。法人としてもアンケートを取り、無記名で満足度を確認する機会をとっている。	家族には法人独自のアンケートを実施し、満足度を確認している他、来所時や電話等で意見や要望等を伺っている。家族が管理者や職員へ意見や要望を表わしやすい関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に2回設け、その時に十分な意見交換をし、要望をまとめ、実践している。	月2回の職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの提案により、障子の鍵について外側と内側から鍵をかけられるよう差し込み棒を作り利用したり、食事のメニューの改善を行う等、提案や要望を日々の運営に反映し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の意見とそれをまとめる上部の意見に思い違いがあり、なかなか思いが伝わらない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けてはもらっているが、制限があり、参加することが困難なこともある。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の交流会は開けていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望をよく聞き、困っていること、してもらいたいことを解決したりしながら、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時に状況をお伺いし、入居となった時にもよく話を聞き、本人の状況や家族の気持ちを受け止め、常に意見、要望をうかがいながら、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開き、現状、必要な支援及び今後必要となってくる支援の話を詳しく行っている。サービス内容にも今後の方針として掲げ、ご理解をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の希望を聞きながら、食事や外出、外食・買物等をともに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに介護し、支え合うもの同士として、家族への情報提供及び来訪時には、意見を聞く機会をもち、本人の介護から離れることなく、ホームに入っていたとしても常に認識頂けるように、密な関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係を大切に、友人との交遊を快く受け入れ、本人がいつでも連絡を取り合ったり、行き来出来るような環境を常に築いている。	本人がこれまで大切にしてきた家族関係や友人との交遊等関係が途切れないよう、本人が連絡を取り合ったり、来所してもらいやすい環境作りや支援に努めている。来所があれば、お茶やお菓子の提供もしている。	

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室にて過ごす時間を少なくするため、レクリエーション・外出などを多くし、会話や交流する機会を増やし、普段の生活でも、互いに助け合いながら生活できる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年末年始のあいさつやその後の経過など、電話等で確認したり、来訪の希望があれば受け入れたりと退所後も良い関係を続けている。また、相談等があれば対応し、退居後も良い関係を築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の細かいことまで、本人に確認しながらケアしている。	毎日のケアコミュニケーションに努めており、エアコンの温度調整、食事の希望、外出先の要望など一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時にあれこれ詳しく聞くのではなく、必要最低限の内容にとどめ、入居後、職員との日常会話の中から、その人の暮らし方や生活環境を把握。また、家族の来訪時に今までの事を聞き、その人物像と暮らしぶりを把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックにて、本人の心身状況を把握。一人一人とのコミュニケーションを密にとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来訪時に合わせ、本人、家族、職員と担当者会議を行い、本人や家族の要望に添ったケアプランを作成している。その後の来訪時にも現状について、詳しく報告し、状況に応じたプランに作り変えている。	本人及び家族と担当職員で話し合い、細部にわたる状況も把握したうえで介護計画を作成している。見直しは3カ月毎に行い、状況に応じた介護計画に作り変えており、家族には来所時等に現状報告や見直しについての説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、気がついた事や改善したことを個人記録または申し送りに記入している。また、職員会議を開き、ともに情報を共有しながら実践に役立てている。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、常に新しい発想のもと、支援させていただくよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族環境等の把握はできている。しかし、地域の資源を活用するまでには至っていないように思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接関係から、入居時にご家族が併設クリニックを主治医とすることを希望とされる場合が多い。その場合、訪問診療にて、本人及び家族の希望・体調の変化を医師に伝え、医師の指導のもと、健康管理に留意した生活を支援している。	受診先については、本人や家族の希望を大切にしているが、入居者等の希望により同法人併設クリニックが入居者全員のかかりつけ医となっている。ホームでは2週に1度訪問診療を受けており、健康状態の管理や適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調変化に異変があった場合には、訪問診療担当の看護師に連絡し、医師または看護師の指示を仰ぎ、適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者・職員とともに慣れ親しんでいる主治医・看護師のもと、入退院相談ができる。また、入院してもそのままにせず、洗濯物確認や本人のもとのものをわたすため、病院に向かった時には、看護師等から現状説明を受けたり、情報を提供するなど、良い関係作りができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になる前に事前に家族や本人と早い段階から話し合っている。本人にあった施設や病院の検討、他施設の紹介等、希望があった時やその段階になった時に、必要な協力は十分におこなえている。	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から本人や家族等と話し合いをもっている。重篤になった場合にも家族等へ確認をしている他、同法人の併設クリニックへの受け入れも行っている。これまで急変という事例はないが、急変時は救急車対応としている等、地域の関係機関と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には、医師へのオンコール・病棟看護師への連絡及び指示を仰ぐ。応急手当の方法は、いつでも確認できるよう壁に方法を張り付けたりしているが、訓練はできていない。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、消火器の取り扱いについて訓練。また、法人へは緊急時の連絡についてのマニュアルを作成してもらっている。	消防、避難訓練を年2回実施しており、法人全体で夜間を想定した訓練も実施している。3月にはホーム単独で消防署員の来所による、消火器の使い方や避難誘導時のアドバイスをもらい、入居者と職員による避難訓練も実施した。消防署が近いことや緊急通報システムにより迅速に連絡できる態勢になっている。	緊急時に職員が防災システムを使いこなせるよう周知したり等の訓練を徹底するとともに、今後、消防団や近隣住民との災害時における協力態勢づくりに向けた取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや対応を行っている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。呼びかけは基本的には「さん」付けで呼んでおり、家族の了解が得られた入居者には、「ちゃん」や愛称で呼んでいる。個人の記録等は、事務所の鍵のかかる場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの希望を出来る限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のため、やむを得ず、職員の都合で事を進めてしまうこともあるが、その人の意思・希望を尊重し、生活ペースを乱すことなく、過ごすことができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアなど行ったり、時にはともに化粧品を買いに行くなど、その人なりの身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、イベント食を考え、今まで家庭で食べたものや今風の食事を考え、提供している。また、できる方とはともに調理の準備もしている。	入居者と職員と一緒に食事の準備や片づけを行うことは難しい状況にあり、食事と一緒に摂れないが、職員も同じものを食べているので食材や味付けの確認は行っている。また、週1回(火曜日)をイベント食の日として、入居者が食事の準備や出来ることを見極めながら一緒に作って食べている。	週1回のイベント食を実施し、入居者と一緒に食べるようにした事は評価できることから、今後も職員間で協議を重ね、入居者と一緒に食事ができる回数や方法を検討していくことに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握、チェック表に記入している。水分をこまめにとり、十分な量の確保に努めている。また、栄養バランスやカロリー、成分コントロール等、同法人の栄養士に相談、実践など協力を得ている。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食は行われていない。夕食後、一人ひとりに対応し、みがけてない所や細やかなところは介助し、口腔ケアをしている。また、歯のチェックを定期的に歯科にて行い、不具合が生じた時には、治療も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにあわせ、時間で声掛けしたり、トイレ誘導を行っている。また、トイレ誘導をすることによって、そのひとにあったオムツの使用の仕方、下着の使用の仕方などを把握し、職員で検討、適したものを使用している。	一人ひとりの排泄パターンに合わせた時間に声かけを行い、トイレ誘導を行っている。リハビリパンツやパット等の使用により、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を本人本位で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分提供、適度な運動を働きかけ実践、排便の状態を確認し、内服薬のコントロール等、個別に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は、集団生活のため、決定せざるをえない。しかし、個々の希望はその生活の中でよく聞き、なるべく添うよう努力している。	入浴日は月・水・金曜としている。時間帯は希望に添うように対応しており、本人本位に促して見守りによる入浴の支援を行っている。また、入浴剤等を使用し、入浴が楽しめるように個々にそった支援にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調にあった温度調整を心がけ、安心して、気持ちよく過ごしていただくことができるよう、心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の確認、服薬の状況を常に確認し、異変が生じた場合は看護師に相談、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた楽しみ方を工夫し、絵画、音楽、書道と日々楽しく、過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩、戸外でのお茶を楽しんだり、車で外出し、買い物や花見、公園に出かけている。	天気の良い日や、涼しい時間に散歩や戸外でお茶を楽しんでいる。本人の希望を聞いて、外食やショッピングモールへの買い物、太平山や尼寺への花見等へのドライブに出掛けている等、外出支援に取り組んでいる。	

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる人は居室にて管理してもらっている。管理できない人は、外出時に本人の代わりに支払い等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じ、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、温度調節など、常に心がけている。また、季節を感じられるよう、花をかざったり、壁紙の工夫をしている。	共用空間はきれいに清掃されており、中庭を囲むように廊下、居室があり、外光が差し込み明るい空間がつくられている他、温度調節は適切に管理されており、快適な空間が確保されている。テーブルには季節の花が生けられ、壁等には入居者が作成した作品が掲示されている。共有空間には入居者に混乱が生じない様に、廊下や居室等に目印が設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫したりもしているが、それぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様に必要なものを確認したり、ご家族に提案したり、生活しやすいよう、支援している。	入居時等に本人や家族に使い慣れた品々の持込みを促しており、各居室には家具や家電の他にも馴染み深い品々が持込まれ、入居者が生活しやすいよう支援している。各居室の清掃は職員が定期的に行っている他、各所においても汚れがある場合には随時、清掃を行い、清潔で快適な生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること、理解できる事を把握し、安全に自主的に行動できるよう努めている。		